

欧米ではマスクをして街に出ると奇異な目で見られ、何かやましいことがあったり、重度の呼吸器系感染症を患っているのではと勘ぐられたりすると言われています。また最近になってようやく、深刻な大気汚染に苦しむ中国を筆頭に東南アジアの国々でもマスクを着用する人が見られるようになって来ましたが、なんと言ってもマスク大国といえば日本であり、特に冬場のマスク着用率は極めて高く、海外から日本を訪れる外国人達の目にはかなりのカルチャーショックとして映っているようです。

マスクを着用する理由の1つとして、自己防御の為ということがあるかと思いますが、そもそもウィルスは小さ過ぎてマスクの目を通り抜けてしまうので、マスクでその侵入を完全に遮断することは出来ません。しかし咳やくしゃみとしてある程度の水分を含んだ状態で他人の口から発散されたウィルスは多少マスクに引っかかる可能性があります。また口腔や鼻腔粘膜を保湿することで、粘膜のバリア機能を高め、ウィルスが粘膜で増殖するのを防ぐという効果もあります。第2の理由としては、咳やくしゃみによってウィルスや細菌を周囲に撒き散らすのをある程度防ぐという、他人に対する配慮もあるかと思いますが。

こんな中ここ数年来、当院外来を訪れる患者さんでマスクを着用されている方がとても増えて来たなあという気がします。そして患者さんの中には付き添いも含め家族全員マスクという異形なケースもあり、着用の理由をお聞きすると「感染予防！」と答える方が大半なのにはちょっと驚かされます。確かに大勢の人間が集まる所には様々な細菌やウィルスが潜んでいて危険ということかと思いますが、当院は整形外科がメインであり咳き込んでいる患者さんは極めてまれです。またマスクをせず咳をしている患者さんを見かけた際は、当院から無料でマスクを提供し着用していただいております。

さて足利市内を見回しますと、医療機関によってはスタッフ全員マスクを着用し、「我々はあなた方の持ち込む細菌やウィルスで感染させられないように防御しています。」と言わんばかりの印象を与える所もあります。各医療機関それぞれの事情があり、理解できる部分もあるのですが、実際どこか具合が悪くて医療機関を受診した際、そこのスタッフ全員がマスクをしていたら、個人的にはちょっと腰が引けてしまうような気がします。そんな訳でいろいろ熟慮した結果、当院スタッフに関しては、咳が出たり花粉症の症状がひどい時などを除き、マスク着用を原則禁止としております。これはマスクをすることで顔の表情が見えなくなり、患者さんに冷たい印象を与えたり、スタッフ達が「マスク依存症」にならないようにするという事とも考えての院長判断であります。

2017.3.20